

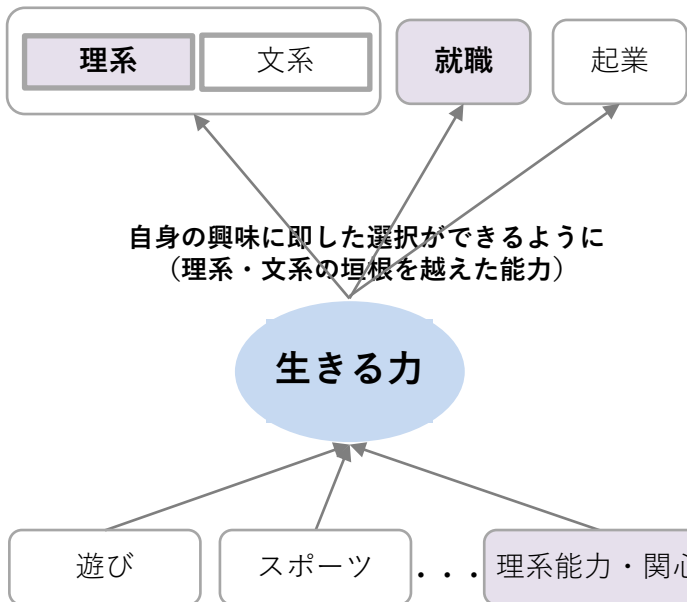
理系人材の裾野拡大に向けた取組について（企業・大学との連携）

～子どもがものごとを科学的な見方や考え方でとらえ、自らのアイデアを育て、実現していく力を社会で育む～

令和5年(2023年)11月13日
第4回滋賀県総合教育会議
資料3-2

基本的な考え方

理系人材のすそ野拡大

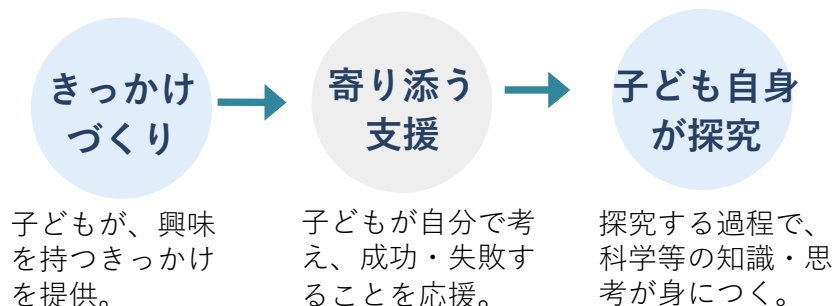


- ①好奇心、論理的思考、課題解決力、生産や空間的把握、言語化、表現力、創造力などの子どもの「生きる力」を社会で育む。
- ②理系の学校・学部への進学、ものづくり産業の就職者数の増加などの副次的な効果も期待。
- ③県内企業の強みや・大学の知の資源を活かし、様々な体験プログラムを創り、発信していく。

今後に向けて

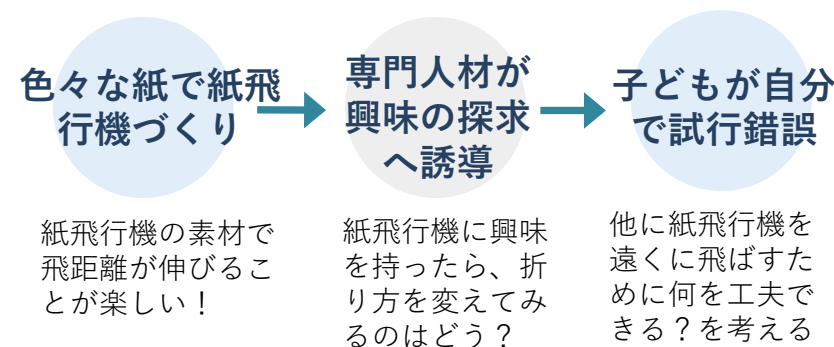
産官学連携によるSTEAM体験プログラム創出

放課後児童クラブ等にて、専門人材が支援

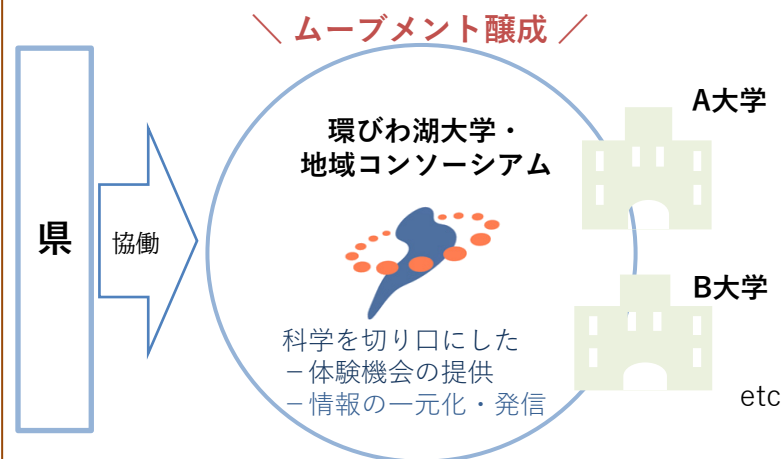


※次頁のこどもBASEとも連携

例：〇〇株式会社presents 放課後探究クラブ



大学による「子どもの知と創る」を応援



「君が知りたいこと、やりたいこと」を合言葉に

★好奇心の刺激

- ・科学を切り口にした体験情報の一元化・発信
- ・大学での子ども向けサイエンス体験の拡充
- ・保護者向けの理系キャリア講座
- ・研究の現場を見て感じるキャンパスツアー
- ・各大学での科学実験教室

理系人材の裾野拡大に向けた取組について（企業・大学との連携）

～子どもがものごとを科学的な見方や考え方でとらえ、自らのアイデアを育て、実現していく力を社会で育む～

参考：こどなBASEについて

コンセプト

こどなBASE

子ども×大人でつくる、滋賀の未来。

企業・事業者・団体同士、子どもの学びの現場を結ぶプラットフォーム

持続可能な滋賀を創る・支える仕事を子どもにより多く知ってもらい、子どもに将来の夢をもってもらうために、企業と子どもたちを繋げるコミュニティ。参加企業が、子どもや将来世代のためのサステナビリティの取組を一層進めていく。

子ども・次世代への体験プログラムの提供や課題の解決
につながるアクションの実施



将来世代である子どものニーズの把握・提供やSDGs等に関する情報提供を通じて、取り組むべき内容の検討やアクションの支援・伴走

企業への効果

- ・子ども・SDGsを起点にした事業アイデアの創発。
- ・社会課題解決に向けた他社との連携の可能性拡大。

子どもへの効果

- ・県内の様々な仕事に触れる機会が生まれる。
- ・仕事への夢、社会貢献の心を育む。

参加企業の子どもへの関わり



ささえる

体験プログラムの実施や子どもの課題を解決するプロジェクトの伴走・コーディネート

きづく

次世代の視点とSDGs経営を学ぶ研修・セミナーへの参加やメールマガジンの受信



つながる

次世代と関わった先進事例の共有や企業同士の連携を図る交流会への参加

その他 賛同団体や子どもの現場ニーズを踏まえて多様なプロジェクトを企画をコーディネート・伴走

10月24日に立ち上げ

11月13日にキックオフトークセッション開催
⇒今後、参画企業・協賛企業等を拡大

滋賀県立高等専門学校（県立高専）の新設について

「高専の強み」 「令和らしさ」 「滋賀らしさ」



「情報技術」 × 「実装」 × 「価値創造」 で具体化

令和10年4月

開校予定！

設置目的

◎ 滋賀発で次代の社会を支える高等専門人材の育成

これからの滋賀や社会を支える価値創造力と専門性、実践力を兼ね備え、協働して挑む高等専門人材を育てていくことを目的とする。



滋賀県立
高等専門学校

専門の応用知識や
技術を身に付ける
コース別の学び
(2年次以降)

機械系

電気電子系

情報技術系

建設系
(環境・インフラ系)

総合学科：「情報技術」を基盤とした学び（1年次）

◎ 技術者育成・交流のハブとして地域産業・社会に貢献

技術を通じてあらゆる世代の人々が行き交い、様々な学びと実践の機会を提供する場として、地域の産業および社会に貢献していくことを目的とする。

設置意義

学 生

◎ 様々なキャリアパスにつながる学びの提供（15歳の新たな選択肢）

産業界のニーズや今後の社会動向を踏まえた技術人材の育成に向け、情報技術をベースとした多様な学びが可能となる環境を整備することで、様々なキャリアパスにつなげることができる。

産業界

◎ 共創による産業の活性化

産業界との共創を実現することで、地域に根差しつつ世界を見据えた高度な技術人材の輩出や新たな産業の創出など、産業のさらなる活性化につなげることができる。

地 域

◎ 地域と地球の課題の解決

リスクリテラシー教育の提供や地域と地球の課題の解決に向けた協働取組の実施など、高専という場を通して人や技術、課題の対流を生み出すことができる。

理系人材の裾野拡大について【高専関係】

小学校高学年からの早い段階での科学や技術の楽しさを伝える機会の増大

科学・技術への
関心・憧れの醸成

理系大学・高専への進学者の増加

理系人材の増加

【想定される取組の方向性】

- 子どもたちが科学・技術を楽しんでいると感じ、興味・関心を覚えることが重要
 - 実体験(体感・実感)が必要であり、イベント開催が有効
 - 交流や体験活動をするための施設(図書・交流拠点施設)を整備
- 応募型の講座や教室に加えて、不特定多数の者が参加可能なイベントを実施することで、きっかけづくりになる可能性
 - ショッピングモール等の人が集まる場所でのイベントが有効
- 様々な主体(近隣高専、県内大学、企業、県立施設等)と連携することで、イベントの規模を拡大することが可能
 - 認知度向上につながる可能性がアップ

【(参考)近隣高専における取組事例】

- 小中学生向け講座等の開催
 - 公開講座・出前講座の開催
 - ジュニアドクター育成塾
 - 共同授業(明石高専)
- 小中学生向け教材開発(全国高専理科学技术教材開発コンテスト)
- 小中学生向けコンテスト開催
 - 小中学生ロボコン
 - プログラミング大会
 - 小学生限定トラスブリッジ・コンテスト(明石高専)
- 高専訪問(総合的学習の授業の一環として)
- オープンキャンパス、学校・授業見学会
- ショッピングモールでの体験イベント(『まるごと高専体験!』明石高専)

具体的内容は、開校(令和10年4月)に照準を合わせて今後検討